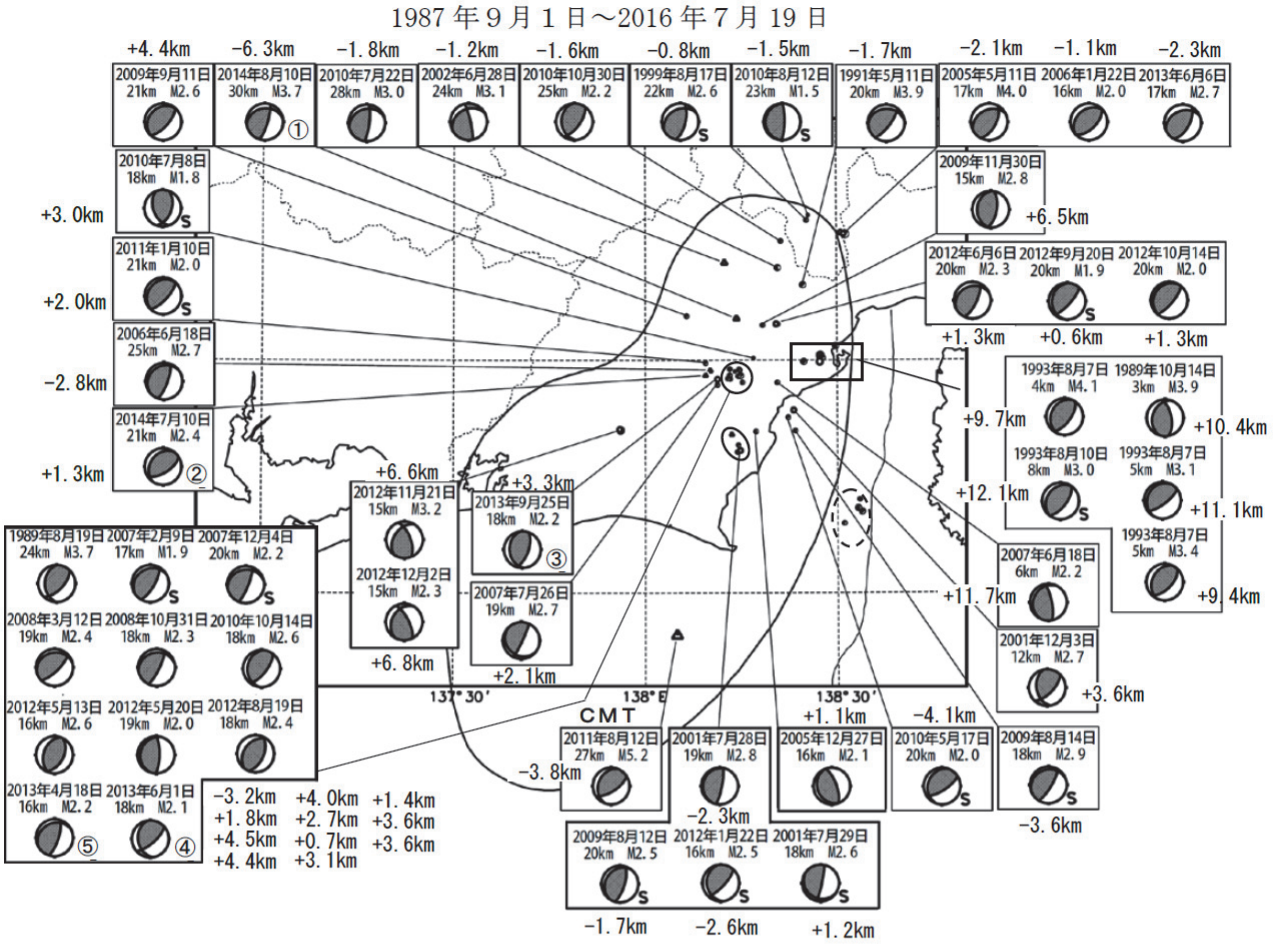
想定東海地震の発震機構解と類似の型の地震

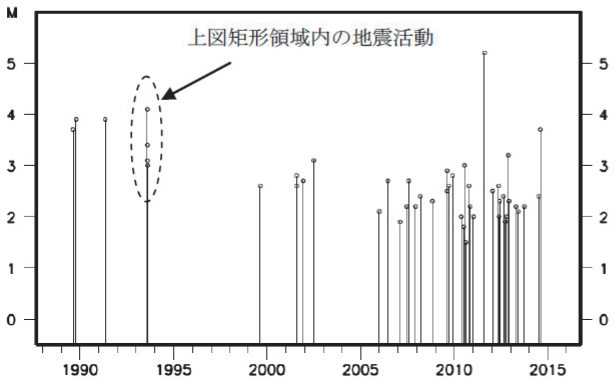


吹き出しの傍に書かれた値は、Hirose et al.(2008)によるプレート境界からの鉛直方向の距離。＋はプレート境界より浅く、－は深いことを示す。
最近発生した５つの地震については、丸数字で順番を示す。

想定東海地震の発震機構解と類似の型の地震を抽出した。抽出条件は、Ｐ軸の傾斜角が 45 度以下、かつＰ軸の方位角が 65 度以上 145 度以下、かつＴ軸の傾斜角が 45 度以上、かつＮ軸の傾斜角が 30 度以下とした。

プレート境界で発生したと疑われる地震の他、明らかに地殻内またはフィリピン海プレート内で発生したと推定される地震も含まれている。また、2009 年までに発生した地震については、Nakamura et al. (2008)の３次元速度構造で震源とメカニズム解を再精査し、いくつかの地震は候補から削除されている。点線楕円で囲まれた地震は、2011 年８月１日に発生した M6.2 の地震の余震で、フィリピン海プレート内の地震である。

なお、吹き出し図中、震源球右下隣りにＳの表示があるものは、発震機構解に十分な精度がない。



上図イベントの、想定震源域内におけるＭ－Ｔ図。

図６　想定東海地震の発震機構解と類似の型の地震　　気象庁作成